

鉄砲洲神社詩吟 素読論語  
(平成 26 年 11 月 21 日)

【一七】子路曰く、桓公 公子糾を殺す。召忽 之に死す。管仲は死せず。曰く、未だ仁ならざるかと。子曰く、桓公 諸侯を九合するに、兵車を以てせざるは、管仲の力なり。其の仁に如かんや。其の仁に如かんやと。

齊の桓公が、公子糾を殺させた。仕えていた召忽は殉死をしたけれど、管仲は殉死しなかった。子路が「殉死をせず桓公に仕えました。これは仁者ではないですよね」と、管仲のことを聞きました。

孔子は、管仲は桓公に仕えて諸侯を九度集めて会合を開いたが、けして武力を持って従わせたのではなく、やりたい放題にやっている各国の君主たちの気持ちを平和裏に周王朝に向かわせた。管仲の力である。この功績に及ぶことがあろうか、これは仁徳である。

孔子が管仲を褒めたということです。孔子はどうも管仲を上げたり下げたりを、あちこちでやっています。

一瞬、中国の習近平さんみたいな話しだなと感じました。そう思ったのは、習近平さんは今風にいえば、中華帝国を再現しようとしています。

領土奪還で回りの国々に向かって、人徳の力を持ってではなく、武力をもって脅迫ですが、威圧をして、ひとつにまとめようとしている。孔子がみれば、「仁に非ず」だろうなと思いました。

おまけです。アメリカが日本に命令して、金融緩和を促進させ自分達の肩代わりをさせた。あれも「仁に非ず」と言うでしょう。

日本のアベノミクスも、よく中身をチェックしますと、安倍さんは次から次にいろいろな法律をつくって、昔出来なかった事をどんどん片付けています。ただ、出来そうなものばかり手を付けていますので、出来そうにないと思ったものについては、スルスルと上手くすり抜けていると感じます。

今回の選挙なども上手にすり抜ける道を図ったものだと思うので、安倍さんが降りたあとは、惨憺たるものになるだろうなと感じました。孔子が今の安倍首相をみると、「仁に非ず」という気がしました。